

令和 3 年 6 月 9 日現在

機関番号：17501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2020

課題番号：18K07946

研究課題名(和文) 網羅的遺伝子解析と組織学的解析によるH. pylori除菌後胃癌高危険群の特定

研究課題名(英文) Identification of high-risk groups of gastric cancer after H. pylori eradication by genetic deep sequential and and histological analysis

研究代表者

兒玉 雅明 (Kodama, Masaaki)

大分大学・福祉健康科学部・教授

研究者番号：20332893

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：ピロリ菌除菌後胃癌において予後が悪いとされる除菌後未分化型癌では深達度が深い、フォローがない特徴があり、注意が必要である。遺伝子解析を行った胃癌20例において非癌部組織、ピロリ菌未感染例、慢性胃炎例の遺伝子変異と比較した結果TP53, PIK3CA, ATM, MET, IDH1, ERBB4が除菌後胃癌に関する遺伝子変異として示唆された。除菌後17年間の追跡では萎縮は改善、腸上皮化生は改善をみなかった。男性は女性より腸上皮化生が高度であった。除菌後は男性、萎縮・腸上皮化生高度、TP53, ATM, MET等の癌遺伝子変異の出現が除菌後胃癌高リスク群と考えられ、これに着目したフォローが必要である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ピロリ菌除菌後胃癌は胃癌の半数を越えてきている。特に生命予後に関わる未分化型胃癌の特性を把握したこと、中でも除菌後フォローアップがされていない例で未分化型胃癌の発生が多いことは除菌後の内視鏡的観察の必要性を示している。また、非胃癌組織と胃癌の次世代シーケンサー解析の比較でTP53他癌に特異的な遺伝子変異を抽出できたことはこれらを胃癌高リスク因子としてスクリーニングに用いることができる。除菌後17年間の胃粘膜観察も萎縮と腸上皮化生、また性別による改善差を示しており、今後の増加するピロリ菌除菌後における胃癌高リスク群の抽出、より早期の胃癌発見につながる事が期待される。

研究成果の概要(英文)：The undifferentiated type of post-H. pylori eradication gastric cancer, which is considered to have poor prognosis, is characterized by a high ratio of females, a deep depth invasion, and no follow-up. Therefore, careful screening requires attention. Genetic analysis with next generation sequencing of 20 gastric cancers revealed that the oncogene mutation, TP53, PIK3CA, ATM, MET, IDH1, and ERBB4, were involved in post-eradication gastric cancer tissues, compared with non-cancerous tissue, such as H. pylori uninfected, and chronic gastritis. 17 years follow-up after eradication, histological atrophy improved, but intestinal metaplasia did not. Male gender had a higher degree of intestinal metaplasia than female. After eradication, males, advanced atrophy and intestinal metaplasia, and the appearance of oncogene mutations such as TP53, ATM, and MET are considered to be high-risk groups for gastric cancer after eradication, and careful follow-up should be focused on these factors.

研究分野：消化器内科学

キーワード：Helicobacter pylori 除菌後胃癌 次世代シーケンサー TP53

1. 研究開始当初の背景

胃癌の最も重大な原因は *Helicobacter pylori* 感染症である。*H. pylori* 除菌は胃癌を抑制するが、除菌後胃癌が近年問題となっている。特に世界で多数の胃癌多発国である本邦では 2013 年に *H. pylori* 感染胃炎が除菌適応となって以降、飛躍的に除菌症例が増加し胃癌に占める除菌後胃癌の割合は増加している。除菌後胃癌は *H. pylori* 現感染胃癌とは腫瘍および背景粘膜ともに大きく異なる性質を有していることが近年指摘されている。しかし、これまでに解析された除菌後胃癌は依然少なく、早急に除菌後胃癌および *H. pylori* 陽性胃炎粘膜の臨床病理学的病態を解明しなければ、胃癌早期発見、治療に混乱をきたすことが予測される。

2. 研究の目的

本研究は 8000 例を越える除菌症例および除菌後胃癌症例を臨床病理学的、遺伝子学的に解析してきたが、今回更に追跡症例を増やし、除菌前から除菌後長期にわたる胃粘膜の組織学的および血清学的変化、また除菌後胃癌特有の癌遺伝子変異を非癌部組織でも追跡することで、除菌後胃癌高リスク遺伝子の特定、また胃癌高リスク例を見出し、リスクに合わせた除菌後スクリーニングによる胃癌早期発見、患者・医療経済への寄与を目的とする。

3. 研究の方法

(1) *H. pylori* 除菌後未分化癌・進行癌と分化型癌における特性の差異

H. pylori 除菌後胃癌の多くは分化型だが未分化型胃癌は予後の点から注意が必要である。当院および関連施設にて認められた除菌後胃癌 115 症例 129 病変にて *tub1*, *tub2* を分化型群、*sig*, *por* の成分を含むものを未分化型群として臨床病理組織学的特徴を比較した。

(2) 次世代シーケンサーによる *H. pylori* 未感染、*H. pylori* 除菌前と除菌 5 年後の非癌組織と胃癌組織における遺伝子変異の比較

これまで除菌後胃癌の遺伝子的なリスク因子解明のため *H. pylori* 陽性胃癌および除菌後胃癌における次世代シーケンサー解析を用いた網羅的遺伝子解析を行っており、除菌後胃癌に特徴的な遺伝子変異パターンの解明を試みてきた。

胃癌において次世代シーケンサー解析では、解析 50 遺伝子中、遺伝子座として Hotspot 変異は *CTNNB1*, *HRAS*, *IDH1*, *KIT*, *MET*, *MHI*, *PDGFRA*, *PIK3CA*, *PTEN*, *SMARCB1*, *TP53* に認められた。特に除菌後高分化型胃癌では有意に変異が少ない傾向を報告した。以前腫瘍部の遺伝子解析を行った *H. pylori* 陽性高分化型胃癌(A)群 5 例 (平均 72.8 歳、男/女:4/1) 除菌後高分化型胃癌(B)群 5 例 (平均 65.0 歳、男/女:4/1) HP 陽性低分化型胃癌(C)群 6 例 (平均 69.5 歳、男/女:3/3) 除菌後低分化型胃癌(D)群 4 例 (平均 72.8 歳、男/女:4/0)において、癌部における解析にて認められた遺伝子変異の精度をより高めるため、非癌部組織をレーザーキャプチャーマイクロダイセクション (LCM) にて選別、DNA を抽出し、再度 Ion torrent、Ion AmpliSeq Cancer Panel v2 (Life technologies)を用いた遺伝子解析を行った。

更に、胃癌症例と比較するため *H. pylori* 未感染症例 4 例、*H. pylori* 除菌前および除菌 5 年後に採取した *H. pylori* 陽性胃炎症例 6 例の遺伝子変異との比較を行った。

(3) *H. pylori* 除菌後の萎縮、腸上皮化生(IM)変化の追跡

1988 年から 2017 年までに胃粘膜解析を行った症例は 8858 例に上る。このうち大分大学医学部附属病院で 1997 年 8 月から 2002 年 12 月までに内視鏡的胃炎を発症し、組織検査、培養、迅速ウレアーゼ試験、血清抗体を評価した 607 例のうち合計 172 名 (男性 94 名、女性 78 名、平均年齢 57.3±11.4 歳) が除菌治療を行った。95 例は 5 年、70 例は 10 年、30 例は

15 年、16 例は 17 年、前向きに追跡調査を行った。

(4) *H. pylori* 抗体と CagA 抗体価の除菌後推移から除菌後胃癌リスク因子の抽出

除菌後胃癌のスクリーニングとしてより非侵襲的な手法による予測因子が望まれる。血清 *H. pylori* 抗体、抗 CagA 抗体価の除菌後推移を除菌後胃癌群と非胃癌群にて比較した。除菌後に胃癌をみた除菌後胃癌群 13 例 (男性 9 例、女性 4 例、除菌時平均年齢 62.7±10.4 歳)、非胃癌群 22 例 (男性 16 例、女性 6 例、除菌時平均年齢 55.4±9.6 歳)にて抗体価推移を解析した。

4. 研究成果

(1) *H. pylori* 除菌後未分化癌・進行癌と分化型癌における特性の差異

除菌後胃癌 129 病変 (男性 113 例、女性 16 例)において、分化型群および未分化型群の各因子の比較は、男女比 94/19 vs. 9/7, P=0.019、除菌時年齢 65.5±8.24 vs. 61.6±9.34, P=0.045、発

	高分化型胃癌	未分化型胃癌	P-値
症例数	99	16	-
病変数	113	16	-
性別 (Male/Female)	94/19	9/7	0.019*
除菌時年齢	65.5±8.24	61.6±9.34	0.045*
胃癌発見時年齢	69.7±8.96	66.0±8.32	0.074 ^b
Follow up (+/-)	86/27	8/8	0.0263*
初発癌 / 異時性癌	75/38	13/3	0.240 ^a
内視鏡萎縮度	4.48±1.40	4.67±1.23	0.330 ^b
部位 U/M/L	19/50/44	2/7/7	0.886*
部位 U/M+L	19/94	2/14	0.710 ^b
肉眼形態 隆起型/陥凹型	38/68	1/13	0.024*
組織型 tub1/tub2/sig. por. Etc.	81/32/0	0/0/14	-
深達度 M/SM/MP/SE	99/12/2/0	7/5/3/1	<0.001
深達度 M/more than SM	99/14	7/9	<0.001
腫瘍径 (mm)	13.2±10.2	25.9±7.3	<0.001*

表 *H. pylori* 除菌後高分化型と未分化型胃癌の臨床病理学的特徴比較

症年齢 69.7±8.96 vs. 66.0±8.32, P=0.074、除菌後経過観察有/無 86/27 vs. 8/8, P=0.0263、部位(U/M/L)19/50/44 vs. 2/7/7, P=0.886、腫瘍径 13.2±10.2 vs. 25.9±7.3, P < 0.001、隆起/陥凹 38/68 vs. 1/13, P=0.024、深達度 (M/SM 以深)99/14 vs. 7/9, P < 0.001 であり、男女比、除菌後経過観察の有無、腫瘍形態、腫瘍径、深達度に有意差を認めた。除菌後未分化型は分化型と比較し女性比率が高く、有意に SM 以深が多い等の差異が認められ、除菌後これら所見への注意、除菌後 follow up の必要性が示唆された。

(2) 次世代シーケンサーによる *H. pylori* 未感染、*H. pylori* 除菌前と除菌 5 年後の非癌組織と胃癌組織における遺伝子変異の比較

非癌症例は、2005 年 6 月から 2012 年 5 月までに当病院にて胃内前庭部大弯、体部大小弯の 3 点より TRIzol™ に浸し、- 80°C 保存した生検組織採取の 150 例中、*H. pylori* 陽性と診断された慢性胃炎症例で除菌成功 5 年後に再度生検を施行された 6 例、*H. pylori* 未感染例 4 例を対象とした。TRIzol™ 浸漬標本を homogenize し DNA を抽出。次世代シーケンサー Ion torrent を用い、パネルとして Ion AmpliSeq™ Cancer Hotspot Panel v2 を用いて 50 種類の癌関連遺伝子の DNA 変異解析を、multiplex PCR 法にて増幅、ライブラリーの作成、シーケンス解析、データ処理を行った。ヒトゲノムの Hg19 (UCSC human genome 19) を参照配列としたが、hg19 が欧米人のデータに依存しており common SNP を除外するため、HGVD (Human Genetic Variation Database) も参照した。

図 1 において黄色、赤色で見られた変異箇所を示すが、多くが SNP によるものであった。HP 除菌前 5 年後では 6 症例を比較したが、除菌前後で変異にほとんど変化を認めなかった。図 1 右側の除菌前後の胃癌群 20 例との比較では胃癌例では非胃癌例に見られない図 1 の印に示す遺伝子座変異が目立った。非胃癌群になく胃癌群のみで変異が見られた遺伝子座は TP53, PIK3CA, ATM, MET, IDH1, ERBB4 が挙げられた。*H. pylori* 未感染例と *H. pylori* 陽性例にて有意な差はなく、胃炎段階で大きな遺伝子変異は乏しいことが示唆された。

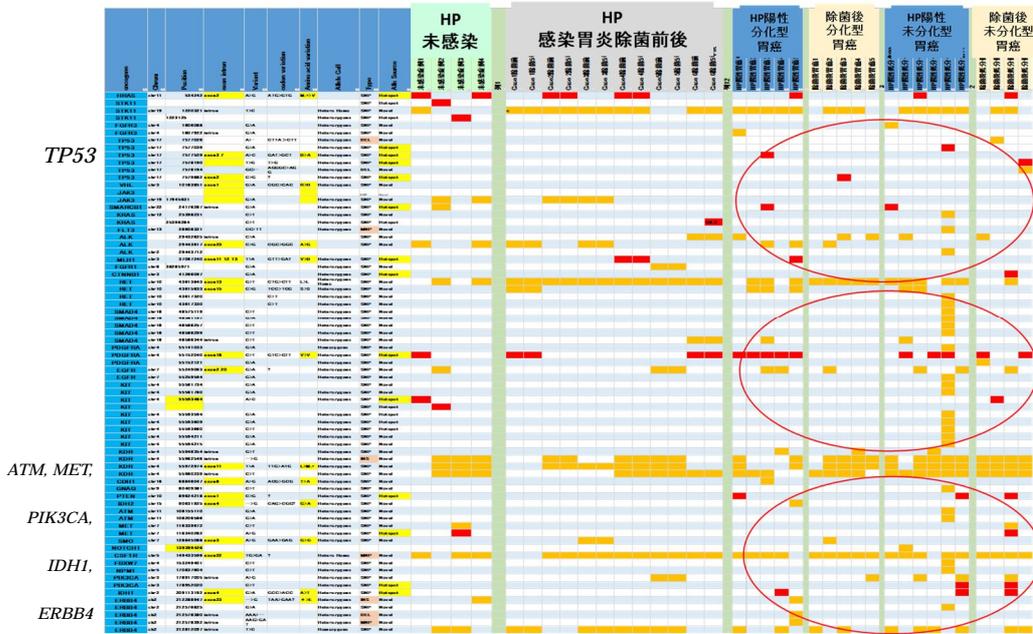


図1 *H. pylori* 未感染、*H. pylori* 陽性慢性胃炎症例における除菌前除菌5年後の変異部比較

また厳密な SNP 除外、またエピジェネティックな解析を含めた検討の必要性が示唆された。除菌による遺伝子変化に乏しく、非胃癌組織では、変異なし、除菌で変異に変化はない、今回解析以外の変異の存在、等の可能性が考慮された。胃癌群のみで

TP53, PIK3CA, ATM, MET, IDH1, ERBB4 な

どの変異が認められ、胃発癌関与の可能性が考慮された。これら遺伝子による多数の解析により除菌後胃癌リスク抽出につながる事が示唆された。

(3) *H. pylori* 除菌後の萎縮、腸上皮化生(IM)変化の追跡

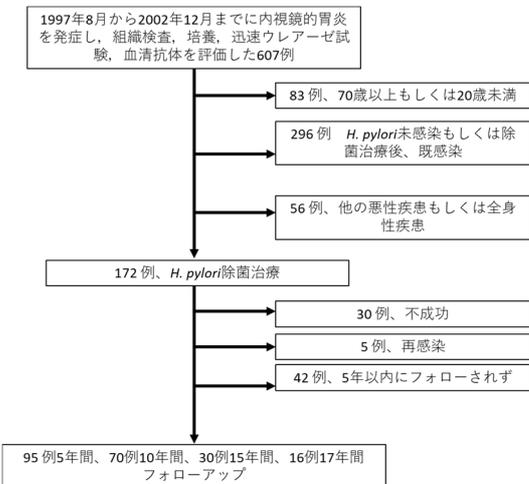


図2 除菌後組織観察のフローチャート

607 例のうち図 2 にそって解析を行った。updated Sydney system による Inflammation, activity, atrophy は前庭部体部とも除菌 1 年以降は除菌前に対して有意な改善をみた ($P < 0.01-0.001$)。除菌後 17 年間の観察にて萎縮は除菌 1 年後には前庭 (1.50 ± 0.75 対 1.21 ± 1.25 , $P < 0.01$) と体部 (0.59 ± 0.75 対 0.18 ± 0.52 , $P < 0.05$) で有意に改善した(図 3 左)。除菌 10 年以降はほぼ一定となった。IM は改善傾向を認めたが、期間を通して有意な変化を認めなかった(図 3 右)。萎縮に有意差な性差はなかった(図 4 左)。IM は男性の方が女性よりも有意に高く (前庭、 0.67 ± 0.94 対 0.44 ± 0.77 , $P = 0.003$ 、体部、 0.20 ± 0.62 対 0.047 ± 0.21 , $P = 0.0027$)。ほとんどの時点で男性の方が高かった(図 4 右)。除菌後の 17 年間に萎縮は有意な改善を見たが、IM は萎縮ほどの変化を認めなかった。IM は男性が女性よりも高度で、除菌後、性差に基づいたフォローアップが重要であることが示された。

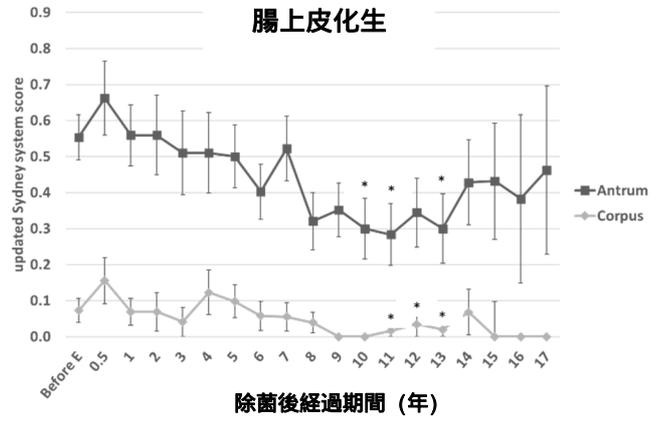
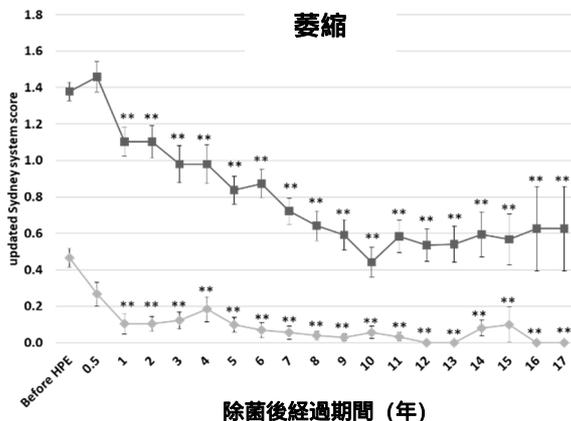


図3 除菌後 17 年間の萎縮(左)、腸上皮化生(右)の推移

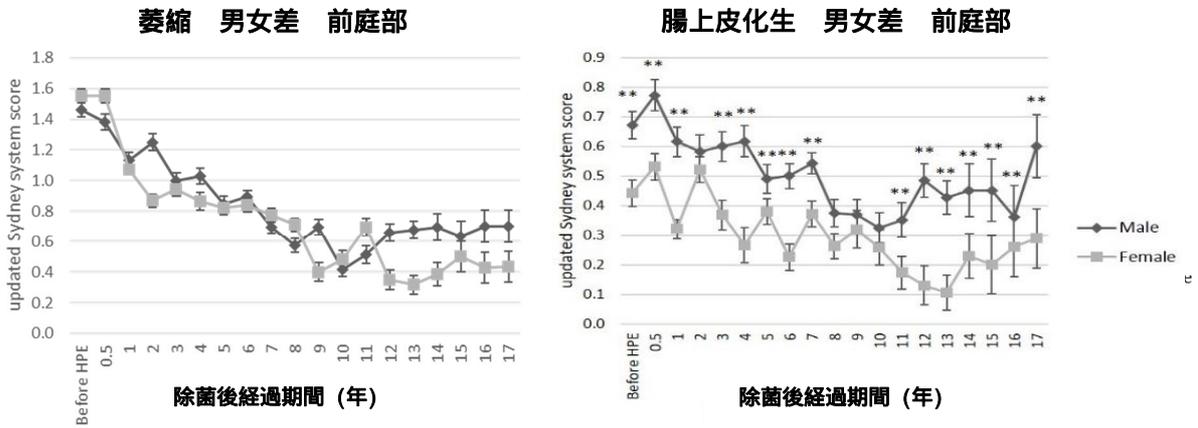


図4 除菌後17年間に於ける男女別の前庭部萎縮(左)、前庭部腸上皮化生(右)の推移

(4) *H. pylori* 抗体と CagA 抗体価の除菌後推移から除菌後胃癌リスク因子の抽出

除菌後胃癌のスクリーニングとしてより非侵襲的な手法による予測因子が望まれる。血清 *H. pylori* 抗体、抗 CagA 抗体価の除菌後推移を除菌後胃癌群と非胃癌群にて比較した。除菌後に胃癌をみた除菌後胃癌群 13 例 (男性 9 例、女性 4 例、除菌時平均年齢 62.7±10.4 歳)、非胃癌群 22 例 (男性 16 例、女性 6 例、除菌時平均年齢 55.4±9.6 歳)にて抗体価推移を解析した。胃癌群および非胃癌群の抗 HP 抗体価の中央値は除菌前 38.0 vs. 29.6 (P=0.431), 除菌 0.5-2 年後では 11.0 vs. 4.97 (P=0.495), 2-5 年後では 7.37 vs. 3.0 (P=0.198), 5-13 年後では 2.10 vs. 2.41 (P=0.344) であり、いずれの時期も AB 群間に有意差を認めなかった (図 5 左)。抗 CagA 抗体価の中央値は除菌前 6.35 vs. 9.88 (P=0.218), 除菌 0.5-2 年後では 3.23 vs. 1.21 (P=0.029), 2-5 年後では 0.42 vs. 0.83 (P=0.260), 5-13 年後では 0.72 vs. 0.66 (P=0.160) であり、除菌 0.5-2 年では除菌後胃癌例で非胃癌例より有意に抗 CagA 抗体高値であった (図 5 右)。抗 CagA 抗体価において除菌短期間での低下が胃癌群において有意に低く、除菌後胃癌リスク予測因子となる可能性が示唆された。

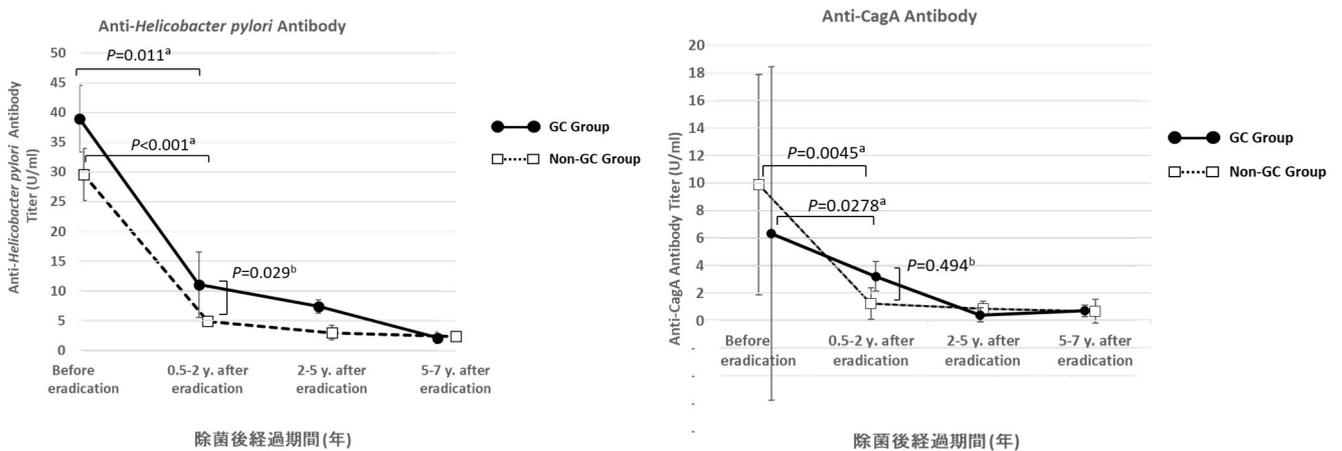


図5 除菌前および除菌後の血清学的抗体価推移 抗 *H. pylori* 抗体価 (左)、抗 CagA 抗体価 (右)

今回、8000 例を越える胃粘膜組織の検討から、男性、萎縮、腸上皮化生高度症例、除菌後未分化型胃癌におけるフォローアップ欠如等のリスク因子、また *TP53* 等の遺伝子変異、血清抗 CagA 抗体価の低下不良などが胃発癌への関与、また除菌後胃癌リスク予測因子としての可能性が考慮された。更に実地に運用可能なもののできるよう更なる多数例、詳細な臨床病理学的な解析が必要である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計36件（うち査読付論文 34件／うち国際共著 4件／うちオープンアクセス 21件）

1. 著者名 Wada Y, Mukaisho KI, Kanai S, Nakayama T, Fukuda M, Mizukami K, Okimoto T, Kodama M, Sugihara H, Murakami K, Kushima R.	4. 巻 66
2. 論文標題 Development of Pancreatic Acinar Cell Metaplasia During Gastric Repair in a Rat Duodenal Contents Reflux Model.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Dig Dis Sci.	6. 最初と最後の頁 1072-1079
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s10620-020-06342-y.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Kawahara Y, Hirashita Y, Tamura C, Kudo Y, Sakai K, Togo K, Fukuda K, Matsunari O, Okamoto K, Ogawa R, Mizukami K, Okimoto T, Kodama M, Murakami K.	4. 巻 -
2. 論文標題 Helicobacter pylori infection modulates endogenous hydrogen sulfide production in gastric cancer AGS cells.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Helicobacter	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/hel.12732.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Wada Y, Kushima R, Kodama M, Fukuda M, Fukuda K, Okamoto K, Ogawa R, Mizukami K, Okimoto T, Murakami K.	4. 巻 477
2. 論文標題 Histological changes associated with pyloric and pseudopyloric metaplasia after Helicobacter pylori eradication.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Virchows Arch.	6. 最初と最後の頁 489-496
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s00428-020-02805-9.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Mizukami K, Katsuta M, Okamoto K, Fukuda K, Ogawa R, Kawahara Y, Hirashita Y, Sato Y, Fukuda M, Okimoto T, Kodama M, Fujioka T, Murakami K.	4. 巻 67
2. 論文標題 Influence of acotiamide on 13C-urea breath test for Helicobacter pylori diagnosis.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 J Clin Biochem Nutr	6. 最初と最後の頁 332-337
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3164/jcbn.20-17.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Kodama M, Okimoto T, Mizukami K, Hirashita Y, Wada Y, Fukuda M, Matsunari O, Okamoto K, Ogawa R, Fukuda K, Kudo Y, Kawahara Y, Murakami K.	4. 巻 -
2. 論文標題 Gastric mucosal changes, and sex differences therein, after Helicobacter pylori eradication: A long-term prospective follow-up study.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 J Gastroenterol Hepatol	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/jgh.15477.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Akada J, Tshibangu-Kabamba E, Tuan VP, Kurogi S, Matsuo Y, Ansari S, Doohan D, Phuc BH, Subsomwong P, Waskito LA, Binh TT, Nguyen LT, Van Khien V, Dung HDQ, Miftahussurur M, Syam AF, Tshering L, Vilaichone RK, Mahachai V, Ratanachu-Ek T, Kodama M, Murakami K, Takahashi N, Yamaoka Y.	4. 巻 -
2. 論文標題 Serum Helicobacter pylori antibody reactivity in seven Asian countries using an automated latex aggregation turbidity assay.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 J Gastroenterol Hepatol	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/jgh.15467	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Kinoshita K, Fukuchi S, Fukuda K, Okamoto K, Ogawa R, Matsunari O, Mizukami K, Okimoto T, Kodama M, Murakami K.	4. 巻 -
2. 論文標題 A case of dengue fever that should be considered as imported infectious disease with digestive symptoms.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Clin J Gastroenterol	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s12328-021-01391-w	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sagami R, Nishikiori H, Sato T, Tsuji H, Ono M, Togo K, Fukuda K, Okamoto K, Ogawa R, Mizukami K, Okimoto T, Kodama M, Amano Y, Murakami K.	4. 巻 116
2. 論文標題 Aerosols Produced by Upper Gastrointestinal Endoscopy: A Quantitative Evaluation.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Am J Gastroenterol.	6. 最初と最後の頁 202-205
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14309/ajg.0000000000000983	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sato Y, Okamoto K, Fukuda M, Oyama Y, Kondo Y, Nishida H, Daa T, Togo K, Sonoda A, Fukuda K, Matsunari O, Ogawa R, Honda K, Mizukami K, Okimoto T, Kodama M, Murakami K	4. 巻 60
2. 論文標題 An Autopsy Case of Acute Pancreatitis Caused by Cholesterol Crystal Embolization.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Intern Med	6. 最初と最後の頁 839-845
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2169/internalmedicine.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Okamoto K, Kodama M, Mizukami K, Okimoto T, Abe H, Ogawa R, Fukuda F, Matsunari O, Hirashita Y, Wada Y, Fukuda M, Murakami K	4. 巻 -
2. 論文標題 Immunohistochemical differences in gastric mucosal damage between nodular and non-nodular gastritis caused by Helicobacter pylori infection	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 J Clin Biochem Nutr	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3164/jcbrn.20-179	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kinoshita K, Matsunari O, Sonoda A, Fukuda K, Okamoto K, Ogawa R, Mizukami K, Okimoto T, Kodama M, Murakami K.	4. 巻 10
2. 論文標題 A case of the lower gastrointestinal bleeding due to Dieulafoy's ulcer in the cecum.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Clin J Gastroenterol	6. 最初と最後の頁 564-567
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s12328-020-01109-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 兒玉雅明、沖本忠義、水上一弘、安部高志、村上和成.	4. 巻 2
2. 論文標題 除菌後の未分化型胃がんの特徴と内視鏡所見.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 消化器内科	6. 最初と最後の頁 51-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 兒玉雅明、沖本忠義、水上一弘、小川竜、岡本和久、福田健介、阿部寿徳、安部高志、永井敬之、村上和成	4. 巻 32
2. 論文標題 H pylori除菌後胃粘膜に生じる未分化型腺癌.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 消化器内視鏡	6. 最初と最後の頁 75-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 兒玉雅明、沖本忠義、水上一弘、小川竜、岡本和久、福田健介、村上和成	4. 巻 21
2. 論文標題 Helicobacter pylori 除菌後17年間のupdated Sydney system による組織学的胃粘膜変化の解析	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本ヘリコバクター学会誌	6. 最初と最後の頁 87-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤公訓, 青山伸郎, 古田隆久, 乾正幸, 井上和彦, 兒玉雅明, 河合隆, 下山克, 菊地正悟, 保田智之, 杉山敏郎, 加藤元嗣, 日本ヘリコバクター学会胃癌リスク評価に資する抗体法適正化委員会	4. 巻 22
2. 論文標題 胃癌リスク評価に資する抗体法適正化に関する多施設研究 (第二報)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本ヘリコバクター学会誌	6. 最初と最後の頁 51-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kikuchi S, Kato M, Mabe K, Kawai T, Furuta T, Inoue K, Ito M, Yoshihara M, Kodama M, Murakami K.	4. 巻 29
2. 論文標題 Optimal Criteria and Diagnostic Ability of Serum Pepsinogen Values for Helicobacter pylori Infection.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 J Epidemiol	6. 最初と最後の頁 147-154
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2188/jea.JE20170094	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Gendo Y, Matsumoto T, Kamiyama N, Saechue B, Fukuda C, Dewayani A, Hidano S, Noguchi K, Sonoda A, Ozaki T, Sachi N, Hirose H, Ozaka S, Eshita Y, Mizukami K, Okimoto T, Kodama M, Yoshimatsu T, Nishida H, Daa T, Yamaoka Y, Murakami K, Kobayashi T.	4. 巻 3
2. 論文標題 Dysbiosis of the Gut Microbiota on the Inflammatory Background due to Lack of Suppressor of Cytokine Signalling-1 in Mice.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Inflamm Intest Dis	6. 最初と最後の頁 145-154
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1159/000495462	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Mizukami K, Matsunari O, Ogawa R, Hirashita Y, Okamoto K, Fukuda K, Sonoda A, Akiyama H, Ozaka S, Kawahara Y, Okimoto T, Kodama M, Murakami K.	4. 巻 3121695
2. 論文標題 Examine the Availability and Safety of Mucosal Cutting Biopsy Technique for Diagnosis of Gastric Submucosal Tumor.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Gastroenterol Res Pract	6. 最初と最後の頁 1~6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1155/2019/3121695	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kodama M, Okimoto T, Mizukami K, Fukuda K, Ogawa R, Okamoto K, Matsunari O, Wada Y, Hirashita Y, Murakami K.	4. 巻 65
2. 論文標題 Evaluation of a Novel Anti-H. pylori Antibody Detection Kit by Latex Turbidimetric Immunoassay.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Clin Lab	6. 最初と最後の頁 929-936
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.7754/Clin.Lab.2018.180918.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kodama M, Okimoto T, Mizukami K, Fukuda K, Ogawa R, Okamoto K, Matsunari O, Kawahara Y, Hirashita Y, Murakami K.	4. 巻 65
2. 論文標題 Differences in Helicobacter pylori and CagA antibody changes after eradication between subjects developing and not developing gastric cancer.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Clin Biochem Nutr	6. 最初と最後の頁 71-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3164/jcbn.19-30	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kawahara Y, Kodama M, Mizukami K, Saito T, Hirashita Y, Sonoda A, Fukuda K, Matsunari O, Okamoto K, Ogawa R, Okimoto T, Murakami K.	4. 巻 65
2. 論文標題 Endoscopic gastric mucosal atrophy as a predictor of colorectal polyps: a large scale case-control study.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 J Clin Biochem Nutr	6. 最初と最後の頁 153-159
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3164/jcbrn.19-47	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大谷直由、梅木健二、安東 優、小野麻美、徳丸 治、兒玉雅明、倉成正恵、橋永一彦、宇佐川佑子、後藤昭彦、松本紘幸、皆尺寺いずみ、小野朋子、本城 心、小宮幸作、森 宣、佐々木啓徳、木曾達也、蓮沼智子、今井浩光、嶋田 颯、上村尚人、門田淳一	4. 巻 68
2. 論文標題 ゲフィチニブ錠250 mg「サワイ」の健康成人における生物学的同等性試験	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 新薬と臨床	6. 最初と最後の頁 624-637
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 兒玉雅明、沖本忠義、水上一弘、小川 竜、岡本和久、福田健介、村上和成	4. 巻 34
2. 論文標題 特集：慢性胃炎を再考する5. 除菌後胃粘膜所見の経時的変化.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 臨床消化器内科	6. 最初と最後の頁 1577-1583
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤田純子, Tshibangu Evariste Kabamba, 内田智久, 沖本忠義, 水上一弘, 兒玉雅明, 村上和成, 山岡吉生	4. 巻 20
2. 論文標題 Award Report(上原H. pylori優秀賞), ラテックス凝集免疫比濁法によるアジア7か国のH. pylori血清抗体価の比較解析	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本ヘリコバクター学会誌	6. 最初と最後の頁 71-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 兒玉 雅明、沖本 忠義、水上 一弘、小川 竜、岡本 和久、村上 和成	4. 巻 34
2. 論文標題 除菌後胃粘膜所見の経時的変化	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 臨牀消化器内科	6. 最初と最後の頁 1577-1583
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 兒玉雅明、沖本忠義、水上一弘、村上和成.	4. 巻 別冊
2. 論文標題 びらん性胃炎.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 消化管症候群 (第3版) - その他の消化管疾患を含めて - 十二指腸 十二指腸潰瘍. 別冊日本臨牀 領域別症候群シリーズ 9	6. 最初と最後の頁 80-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 兒玉雅明、沖本忠義、水上一弘、安部高志、村上和成	4. 巻 2
2. 論文標題 除菌後の未分化型胃がんの特徴と内視鏡所見	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 消化器内科	6. 最初と最後の頁 51-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 兒玉雅明、沖本忠義、水上一弘、小川竜、岡本和久、福田健介、阿部寿徳、安部高志、永井敬之、村上和成	4. 巻 32
2. 論文標題 H pylori除菌後胃粘膜に生じる未分化型腺癌	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 消化器内視鏡	6. 最初と最後の頁 75-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 兒玉雅明、沖本忠義、水上一弘、小川竜、岡本和久、福田健介、村上和成	4. 巻 21
2. 論文標題 Helicobacter pylori 除菌後17年間のupdated Sydney system による組織学的胃粘膜変化の解析	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本ヘリコバクター学会誌	6. 最初と最後の頁 87-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kodama Masaaki, Okimoto Tadayoshi, Mizukami Kazuhiro, Abe Hisanori, Ogawa Ryo, Okamoto Kazuhisa, Shuto Mitsutaka, Matsunari Osamu, Hirashita Yuka, Sato Ryugo, Abe Takashi, Nagai Takayuki, Arita Tsuyoshi, Murakami Kazunari	4. 巻 97
2. 論文標題 Endoscopic and Immunohistochemical Characteristics of Gastric Cancer with versus without <i>Helicobacter Pylori</i> Eradication	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Digestion	6. 最初と最後の頁 288 ~ 297
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1159/000485504	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Saito T, Niida A, Uchi R, Hirata H, Kodama M, Okimoto T, Mizukami K, Ogawa R, Okamoto K, Shuto M, Murakami K, Suzuki Y, Ogawa S, Miyano S, Mimori K, et al.	4. 巻 9
2. 論文標題 A temporal shift of the evolutionary principle shaping intratumor heterogeneity in colorectal cancer	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Nature Communications	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41467-018-05226-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Gendo Y, Matsumoto T, Kamiyama N, Saechue B, Fukuda C, Dewayani A, Mizukami K, Okimoto T, Kodama M, Yoshimatsu T, Nishida H, Daa T, Yamaoka Y, Murakami K, Kobayashi T, et al.	4. 巻 3
2. 論文標題 Dysbiosis of the Gut Microbiota on the Inflammatory Background due to Lack of Suppressor of Cytokine Signalling-1 in Mice	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Inflammatory Intestinal Diseases	6. 最初と最後の頁 145 ~ 154
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1159/000495462	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Kikuchi Shogo, Kato Mototsugu, Mabe Katsuhiko, Kawai Takashi, Furuta Takahisa, Inoue Kazuhiko, Ito Masanori, Yoshihara Masaharu, Kodama Masaaki, Murakami Kazunari	4. 巻 29
2. 論文標題 Optimal Criteria and Diagnostic Ability of Serum Pepsinogen Values for <i>Helicobacter pylori</i> Infection	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Epidemiology	6. 最初と最後の頁 147 ~ 154
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2188/jea.JE20170094	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 兒玉雅明、沖本忠義、小川竜、岡本和久、水上一弘、村上和成	4. 巻 22
2. 論文標題 日本ヘリコバクター学会主導の全国除菌レジストリー(登録調査) 世界の類似研究との差異 欧米とアジア	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Helicobacter Research	6. 最初と最後の頁 48-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 水上一弘、阿部寿徳、後藤康彦、淵野貴文、福田健介、松成修、岡本和久、小川竜、沖本忠義、兒玉雅明、村上和成	4. 巻 39
2. 論文標題 逆流性食道炎患者におけるプロトンポンプ阻害薬の内視鏡的治癒および症状改善効果の検討	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Therapeutic Research	6. 最初と最後の頁 685-690
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤田純子, Tshibangu Evariste Kabamba, 内田智久, 沖本忠義, 水上一弘, 兒玉雅明, 村上和成, 山岡吉生	4. 巻 20
2. 論文標題 ラテックス凝集免疫比濁法によるアジア7か国のH. pylori血清抗体価の比較解析	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本ヘリコバクター学会誌	6. 最初と最後の頁 71-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計72件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 24件）

1. 発表者名 佐藤祐斗、福田昌英、沖本忠義、兒玉雅明、村上和成
2. 発表標題 自己免疫胃炎患者におけるH. pylori感染状態に関する臨床的検討
3. 学会等名 第26回日本ヘリコバクター学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 福田昌英、水上一弘、佐藤祐斗、沖本忠義、兒玉雅明、村上和成
2. 発表標題 ラズベリー様外観を呈する胃ポリープに関する臨床的検討
3. 学会等名 第26回日本ヘリコバクター学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 沖本忠義、福田健介、小川竜、岡本和久、水上一弘、兒玉雅明、村上和成
2. 発表標題 別府市における中学生ピロリ検診の現状
3. 学会等名 第26回日本ヘリコバクター学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 兒玉雅明、沖本忠義、村上和成
2. 発表標題 ラテックス凝集免疫比濁法による各種血清抗H. pylori抗体測定キット有用性の検討
3. 学会等名 第26回日本ヘリコバクター学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 福田健介、松成修、岡本和久、小川 竜、水上一弘、沖本忠義、兒玉雅明、村上和成
2. 発表標題 H. pylori除菌後の長期的な血清学的、組織学的変化の検討
3. 学会等名 第26回日本ヘリコバクター学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 川原義成、兒玉雅明、水上一弘、福田健介、松成修、岡本和久、小川竜、沖本忠義、村上和成
2. 発表標題 H. pylori感染および見感染者における大腸ポリープ発生のリスク検討
3. 学会等名 第26回日本ヘリコバクター学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 佐藤祐斗、下森雄太、濱本真理奈、福田昌英、齋藤衆子、園田光、首藤充孝、福田健介、松成修、岡本和久、小川竜、水上一弘、沖本忠義、兒玉雅明、村上和成
2. 発表標題 子宮癌肉腫の経過中に発症したリンパ濾胞性直腸炎の一例
3. 学会等名 第16回日本消化管学会総会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 兒玉雅明
2. 発表標題 H. pylori 除菌後発見の高分化および未分化型各胃癌における遺伝子変異を含む臨床病理学的特徴の比較
3. 学会等名 第106回日本消化器病学会総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Hirashita Y, Fukuda M, Wada Y, Fukuda K, Matsunari O, Okamoto K, Ogawa R, Mizukami K, Honda K, Okimoto T, Kodama M, Murakami K
2. 発表標題 Dimethylation level of eEF1A and the gastric mucosa after Helicobacter pylori (H. pylori) eradication therapy
3. 学会等名 ACG2020 American College of Gastroenterology Annual Scientific Meeting (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 水上一弘、兒玉雅明、村上和成
2. 発表標題 Helicobacter pylori除菌療法後における若年者と高齢者の胃粘膜組織の改善効果の比較
3. 学会等名 第28回日本消化器関連学会週間
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 兒玉雅明、沖本忠義、村上和成
2. 発表標題 H. pylori除菌後17年の胃粘膜変化と除菌後胃癌症例におけるペプシノーゲン推移の比較
3. 学会等名 第28回日本消化器関連学会週間
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 和田康宏、向所賢一、金井俊平、仲山貴永、福田昌英、水上一弘、沖本忠義、兒玉雅明、杉原洋行、九嶋亮治、村上和成
2. 発表標題 隣上皮化生は胃粘膜の再生過程で発生する ラット十二指腸液逆流モデルからの知見
3. 学会等名 第28回日本消化器関連学会週間
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 沖本忠義、福田健介、小川竜、岡本和久、水上一弘、兒玉雅明、村上和成
2. 発表標題 大分県における中学生H. pylori検診の現状
3. 学会等名 第28回日本消化器関連学会週間
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 佐上亮太、錦織英史、佐藤孝生、辻博晶、 兒玉雅明、村上和成
2. 発表標題 COVID-19流行下における内視鏡診療と追加感染防御 -Endoscopic Shield の可能性
3. 学会等名 第116回日本消化器病学会九州支部例会・第110回日本消化器内視鏡学会九州支部例会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 福田健介、都甲和美、岡本和久、小川竜、 松成修、水上一弘、沖本忠義、兒玉雅明、 村上和成
2. 発表標題 H. pylori 除菌後の長期的な血清学的、組織学的変化の検討
3. 学会等名 第116回日本消化器病学会九州支部例会・第110回日本消化器内視鏡学会九州支部例会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 佐藤祐斗、福田昌英、沖本忠義、兒玉雅明、村上和成
2. 発表標題 H. pylori 除菌後の胃に潜在する自己免疫性胃炎についての臨床的検討
3. 学会等名 第116回日本消化器病学会九州支部例会・第110回日本消化器内視鏡学会九州支部例会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 堤康志郎、佐藤祐斗、福田健介、岡本和久、小川竜、松成修、水上一弘、沖本忠義、兒玉雅明、村上和成
2. 発表標題 当院における SNADET に対する Underwater EMR の現状と治療成績
3. 学会等名 第116回日本消化器病学会九州支部例会・第110回日本消化器内視鏡学会九州支部例会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 都甲和美、水上一弘、沖本忠義、兒玉雅明、村上和成
2. 発表標題 粘膜治癒を達成できた潰瘍性大腸炎患者における組織学的治癒の検討
3. 学会等名 第116回日本消化器病学会九州支部例会・第110回日本消化器内視鏡学会九州支部例会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小川竜、首藤充孝、堤康志郎、都甲和美、福田健介、松成修、岡本和久、水上一弘、沖本忠義、兒玉雅明、村上和成
2. 発表標題 Jackhammer 食道に対する POEM
3. 学会等名 第116回日本消化器病学会九州支部例会・第110回日本消化器内視鏡学会九州支部例会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 兒玉康弘、鹿子嶋洋明、石橋恵美子、佐藤祐斗、和田康宏、堤康志郎、都甲和美、福田健介、岡本和久、松成修、小川竜、本田浩一、水上一弘、沖本忠義、兒玉雅明、村上和成
2. 発表標題 慢性食道 GVHD が背景にあると考えられた多発食道癌の一例
3. 学会等名 第116回日本消化器病学会九州支部例会・第110回日本消化器内視鏡学会九州支部例会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 石橋恵美子、小川竜、堤康志郎、福田健介、岡本和久、水上一弘、沖本忠義、兒玉雅明、村上和成
2. 発表標題 DES に対し POEM が有効であった1例
3. 学会等名 第116回日本消化器病学会九州支部例会・第110回日本消化器内視鏡学会九州支部例会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 淵野貴文、阿部寿徳、水上一弘、沖本忠義、兒玉雅明、村上和成
2. 発表標題 大腸内視鏡検査を契機に発見、摘除を行った蟻虫症の1例
3. 学会等名 第116回日本消化器病学会九州支部例会・第110回日本消化器内視鏡学会九州支部例会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 福田 健介, 下森 雄太, 濱本 真理奈, 佐藤 祐斗, 都甲 和美, 岡本 和久, 小川 竜, 水上 一弘, 沖本 忠義, 兒玉 雅明, 村上 和成
2. 発表標題 縦隔に進展した膵仮性嚢胞 2 症例の検討
3. 学会等名 第 99 回 日本消化器内視鏡学会総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 岡本 和久, 福田 健介, 小川竜, 水上 一弘, 沖本 忠義, 兒玉 雅明, 村上 和成
2. 発表標題 当院における胆嚢癌の術前内視鏡診断の成績と工夫
3. 学会等名 第 99 回 日本消化器内視鏡学会総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 兒玉 雅明, 沖本 忠義, 水上 一弘, 小川 竜, 岡本 和久, 福田 健介, 川原 義成, 平下 有香, 福田 昌英, 松成 修, 阿部 寿徳, 安部 高志, 永井 敬之, 村上 和成
2. 発表標題 H. pylori 除菌後胃癌の臨床病理学的検討 ~ 未分化癌・進行癌を中心に ~
3. 学会等名 内視鏡学会付置研究会第 1 回 Helicobacter pylori 未感染と除菌後時代の胃癌発見に役立つ内視鏡診断の構築研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yasuhiro Wada, Ryoji Kushima, Masaaki Kodama, Masahide Fukuda, Kensuke Fukuda, Kazuhisa Okamoto, Ryo Ogawa, Kazuhiro Mizukami, Tadayoshi Okimoto, Kazunari Murakami
2. 発表標題 Histological changes focused on pyloric and pseudopyloric metaplasia after Helicobacter pylori eradication
3. 学会等名 第17回日韓ジョイントシンポジウム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 佐藤祐斗, 福田昌英, 沖本忠義, 兒玉雅明, 村上和成
2. 発表標題 自己免疫胃炎患者におけるH. pylori感染状態に関する臨床的検討
3. 学会等名 第26回日本ヘリコバクター学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 福田昌英, 水上一弘, 佐藤祐斗, 沖本忠義, 兒玉雅明, 村上和成
2. 発表標題 ラズベリー様外観を呈する胃ポリープに関する臨床的検討
3. 学会等名 第26回日本ヘリコバクター学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 沖本忠義、福田健介、小川竜、岡本和久、水上一弘、兒玉雅明、村上和成
2. 発表標題 別府市における中学生ピロリ検診の現状
3. 学会等名 第26回日本ヘリコバクター学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 兒玉雅明、沖本忠義、村上和成
2. 発表標題 ラテックス凝集免疫比濁法による各種血清抗H. pylori抗体測定キット有用性の検討
3. 学会等名 第26回日本ヘリコバクター学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 福田健介、松成修、岡本和久、小川竜、水上一弘、沖本忠義、兒玉雅明、村上和成
2. 発表標題 H. pylori除菌後の長期的な血清学的、組織学的変化の検討
3. 学会等名 第26回日本ヘリコバクター学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 川原義成、兒玉雅明、水上一弘、福田健介、松成修、岡本和久、小川竜、沖本忠義、村上和成
2. 発表標題 H. pylori感染および見感染者における大腸ポリープ発生のリスク検討
3. 学会等名 第26回日本ヘリコバクター学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kodama M, Okimoto T, Mizukami K, Ogawa R, Okamoto K, Matsunari O, Fukuda K, Murakami K.
2. 発表標題 Differences of Gastric Cancer Characteristics Between With and Without Helicobacter pylori Eradication
3. 学会等名 American College of Gastroenterology Annual Scientific Meeting (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kawahara Y, Kodama M, Mizukami K, Saito T, Hirashita Y, Sonoda A, Fukuda K, Matsunari O, Okamoto K, Ogawa R, Okimoto T, Murakami K.
2. 発表標題 Helicobacter pylori Infection Increases the Risk of Colorectal Polyps: A Large Scale Case-Control Study
3. 学会等名 American College of Gastroenterology Annual Scientific Meeting (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Okimoto T, Kodama M, Mizukami K, Ogawa R, Okamoto K, Matsunari O, Fukuda K, Murakami K.
2. 発表標題 Long-term follow up of endoscopic/histological atrophy, serum pepsinogen level and helicobacter pylori antibody level after eradication
3. 学会等名 Digestive Disease Week2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小川竜、福田健介、岡本和久、松成修、水上一弘、沖本忠義、兒玉雅明、村上和成
2. 発表標題 食道癌に対するサルベージ療法としてのESDの有用性・安全性の検討
3. 学会等名 第15回日本消化管学会総会学術集会 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小川竜、福田健介、岡本和久、松成修、水上一弘、沖本忠義、兒玉雅明、村上和成
2. 発表標題 当科の非乳頭部十二指腸腫瘍に対する内視鏡治療の現状
3. 学会等名 第113回日本消化器病学会九州支部例会・第107回日本消化器内視鏡学会九州支部例会（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平下有香、平下禎二郎、園田光、福田健介、岡本和久、小川竜、本田浩一、水上一弘、沖本忠義、兒玉雅明、猪股雅史、村上和成
2. 発表標題 膵IPMNの癌化・浸潤におけるmTORC1活性と糖の取り込みとの関係
3. 学会等名 第113回日本消化器病学会九州支部例会・第107回日本消化器内視鏡学会九州支部例会（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 淵野貴文、阿部寿徳、水上一弘、有田桂子、沖本忠義、兒玉雅明、村上和成
2. 発表標題 当院における最近の胃アニサキス症についての検討
3. 学会等名 第113回日本消化器病学会九州支部例会・第107回日本消化器内視鏡学会九州支部例会（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 木本喬博、園田光、勝田泰志郎、秋山英俊、小坂聡太郎、川原養成、平下有香、福田健介、松成修、岡本和久、小川竜、水上一弘、沖本忠義、兒玉雅明、村上和成、石井一志、平塚考宏
2. 発表標題 腸閉塞を契機に診断された上部空腸サイトメガロウイルス腸炎の1例
3. 学会等名 第113回日本消化器病学会九州支部例会・第107回日本消化器内視鏡学会九州支部例会（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 瀧野貴文、阿部寿徳、水上一弘、有田桂子、小森陽子、白水章夫、沖本忠義、兒玉雅明、村上和成
2. 発表標題 内視鏡的に摘除した大腸アニサキス症の一例
3. 学会等名 第113回日本消化器病学会九州支部例会・第107回日本消化器内視鏡学会九州支部例会（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 成安昶彦、福田健介、木本喬博、勝田泰志郎、秋山英俊、園田光、松成修、岡本和久、小川竜、水上一弘、本田浩一、沖本忠義、兒玉雅明、清家正隆、村上和成
2. 発表標題 IVRにて止血シカプセル内視鏡検査と下部消化管内視鏡検査で潰瘍を確認し得た小腸出血の1例
3. 学会等名 第113回日本消化器病学会九州支部例会・第107回日本消化器内視鏡学会九州支部例会（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小川竜、福田健介、岡本和久、水上一弘、沖本忠義、兒玉雅明、村上和成
2. 発表標題 POEMが有効であったJackhammer食道の2例
3. 学会等名 第97回日本消化器内視鏡学会総会（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 福田健介、岡本和久、小川竜、松成修、水上一弘、沖本忠義、兒玉雅明、村上和成
2. 発表標題 当院での上部消化管サイトメガロウイルス感染症の検討
3. 学会等名 第97回日本消化器内視鏡学会総会（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 兒玉雅明、沖本忠義、村上和成
2. 発表標題 H. pylori除菌後胃癌群と非胃癌群における長期経過後の胃粘膜変化およびペプシノーゲン推移の比較
3. 学会等名 第97回日本消化器内視鏡学会総会（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岡本和久、兒玉雅明、阿部寿徳、沖本忠義、福田健介、首藤充孝、小川 竜、水上一弘、松成 修、村上和成
2. 発表標題 鳥肌と非鳥肌 H. pylori感染胃炎の Updated Sydney score および免疫組織学的差異の比較
3. 学会等名 第97回日本消化器内視鏡学会総会（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 兒玉雅明、沖本忠義、水上一弘、小川竜、岡本和久、松成修、平下有香、村上和成
2. 発表標題 H.pylori除菌後17年間のUpdated Sydney systemによる組織学的胃粘膜変化の解析
3. 学会等名 第25回日本ヘリコバクター学会学術集会（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 水上一弘、福田昌英、濱本真理奈、下森雄太、佐藤祐斗、都甲和美、福田健介、小川竜、岡本和久、沖本忠義、兒玉雅明、村上和成
2. 発表標題 当院における小腸細菌異常増殖患者の検討
3. 学会等名 第114回日本消化器病学会九州支部例会・第108回日本消化器内視鏡学会九州支部例会（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 福田健介、岡本和久、小川竜、松成修、水上一弘、沖本忠義、兒玉雅明、村上和成
2. 発表標題 H. pylori除菌前後の血清学的、組織学的変化の検討
3. 学会等名 JDDW2019・第27回日本消化器関連学会週間（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 兒玉雅明、沖本忠義、水上一弘、福田健介、岡本和久、小川竜、園田光、和田康弘、平下有香、松成修、村上和成
2. 発表標題 ラテックス凝集免疫比濁法およびELISA法による各種血清H. pylori抗体検出キット有用性の検討
3. 学会等名 JDDW2019・第27回日本消化器関連学会週間（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平下有香、水上一弘、沖本忠義、兒玉雅明、白下英史、猪俣雅史、守山 正胤、村上和成
2. 発表標題 RAS/BRAF変異型進行大腸癌における早期反応性マーカーを用いたtrametinib感受性予測法の検討
3. 学会等名 JDDW2019・第27回日本消化器関連学会週間（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 兒玉雅明、村上和成
2. 発表標題 次世代シーケンサーを用いたH. pylori感染胃癌および除菌後胃癌における分化度別遺伝子変異の比較
3. 学会等名 除菌時代について考える会2019（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐藤祐斗、下森雄太、濱本真理奈、福田昌英、齋藤衆子、園田光、首藤充孝、福田健介、松成修、岡本和久、小川竜、水上一弘、沖本忠義、兒玉雅明、村上和成
2. 発表標題 子宮癌肉腫の経過中に発症したリンパ濾胞性直腸炎の一例
3. 学会等名 第16回日本消化管学会総会学術集会（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Okimoto T, Ogawa R, Ozaka S, Matsunari O, Fukuda K, Okamoto K, Mizukami K, Kodama M, Murakami K
2. 発表標題 Changes of the Gastric Mucosal Glycosylation in H. pylori Infection and Before/After H. pylori Eradication Using Lectin Microarray Analysis
3. 学会等名 ACG Annual Scientific Meeting and Postgraduate Course 2018（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kodama M, Okimoto T, Mizukami K, Ogawa R, Okamoto K, Fukuda K, Matsunari O, Murakami K
2. 発表標題 Evaluation of a new Latex agglutination immunoturbidimetry kit, H. pylori-Latex "SEIKEN", for the detection of anti-H.pylori antibody in the blood
3. 学会等名 ACG Annual Scientific Meeting and Postgraduate Course 2018（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 兒玉雅明、沖本忠義、小川竜、岡本和久、水上一弘、首藤充孝、阿部寿徳、安部高志、永井敬之、有田毅、村上和成
2. 発表標題 H.pylori除菌後発見胃癌における胃粘膜萎縮、腸上皮化生の除菌後経時変化の検討
3. 学会等名 第14回日本消化管学会総会学術集会,東京都、京王プラザホテル
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 岡本和久、兒玉雅明、阿部寿徳、沖本忠義、小川竜、水上一弘、首藤充孝、松成修、村上和成
2. 発表標題 H.pylori感染胃炎における鳥肌 (Nodular gastritis) における免疫組織学的細胞動態の検討
3. 学会等名 第104回日本消化器病学会総会, 東京都、京王プラザホテル
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 兒玉雅明、沖本忠義、村上和成
2. 発表標題 H.pylori除菌前後に発見された低分化型および高分化型各胃癌における次世代シーケンサーを用いた癌遺伝子変異の比較
3. 学会等名 第104回日本消化器病学会総会, 東京都、京王プラザホテル
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 兒玉雅明、沖本忠義、村上和成
2. 発表標題 H.pylori除菌後発見未分化型胃癌における臨床病理学的特徴の検討
3. 学会等名 第95回日本消化器内視鏡学会総会, 東京都、グランドプリンスホテル新高輪
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 水上一弘、兒玉雅明、沖本忠義、阿部寿徳、安部高志、小川竜、岡本和久、首藤充孝、永井敬之、村上和成
2. 発表標題 Helicobacter pylori 除菌後発見胃癌における臨床病理学的特性の検討
3. 学会等名 第111回日本消化器病学会九州支部会・第105回日本消化器内視鏡学会九州支部会、福岡県、北九州国際会議場/西日本総合展示場
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 淵野貴文、阿部寿徳、水上一弘、兒玉雅明、村上和成
2. 発表標題 H.pylori 除菌後における除菌後発見進行癌についての検討
3. 学会等名 第111回日本消化器病学会九州支部会・第105回日本消化器内視鏡学会九州支部会、福岡県、北九州国際会議場/西日本総合展示場
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 福田健介、首藤充孝、岡本和久、小川竜、松成修、水上一弘、沖本忠義、兒玉雅明、村上和成
2. 発表標題 ラテックス凝集免疫比濁法を用いた新規Helicobacter pylori 抗体検出キットの有用性の検討
3. 学会等名 第24回日本ヘリコバクター学会学術集会、大分県大分市、レンブラントホテル大分
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 淵野貴文、阿部寿徳、綿田雅秀、有田毅、水上一弘、沖本忠義、兒玉雅明、村上和成
2. 発表標題 H.pylori 除菌10年後に発見した除菌後進行胃癌の一例
3. 学会等名 第24回日本ヘリコバクター学会学術集会、大分県大分市、レンブラントホテル大分
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 和田康宏、福田昌英、福田健介、岡本和久、小川竜、水上一弘、沖本忠義、兒玉雅明、九嶋亮治、村上和成
2. 発表標題 偽幽門腺化生の生じる背景胃粘膜の特徴とピロリ菌除菌による変化
3. 学会等名 第24回日本ヘリコバクター学会学術集会、大分県大分市、レンブラントホテル大分
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 赤田純子、カバンバ エバリステ チバング、内田智久、沖本忠義、水上一弘、兒玉雅明、村上和成、山岡 吉生
2. 発表標題 ラテックス凝集免疫比濁法によるアジア7 か国のH. pylori 血清抗体価の比較解析
3. 学会等名 第24回日本ヘリコバクター学会学術集会, 大分県大分市、レンブラントホテル大分
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 水上一弘、勝田真琴、広島康久、淵野貴文、坂本佳菜子、平下有香、園田光、福田健介、小川竜、岡本和久、沖本忠義、兒玉雅明、藤岡利生、瀧上茂、村上和成
2. 発表標題 アコチアミド塩酸塩水和物の尿素呼気試験におけるHelicobacter pylori の感染判定に関する検討
3. 学会等名 第24回日本ヘリコバクター学会学術集会, 大分県大分市、レンブラントホテル大分
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小川竜、沖本忠義、福田健介、岡本和久、松成修、水上一弘、兒玉雅明、村上和成
2. 発表標題 レクチンマイクロアレイ法を用いたH. pylori 感染による胃粘膜糖鎖発現の検討
3. 学会等名 第24回日本ヘリコバクター学会学術集会, 大分県大分市、レンブラントホテル大分
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 水上一弘、勝田真琴、広島康久、淵野貴文、坂本佳菜子、平下有香、園田光、福田健介、首藤充孝、岡本和久、小川竜、沖本忠義、兒玉雅明、瀧上茂、藤岡利生、村上和成
2. 発表標題 Helicobacter pylori陽性機能性ディスぺプシアを対象としたアコチアミド塩酸塩水和物の感染判定への影響と腹部症状改善効果の検討
3. 学会等名 第60回日本消化器病学会大会, JDDW2018, 第26回日本消化器関連学会週間,、兵庫県神戸市、神戸コンベンションセンター
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 和田康宏, 福田昌英, 福田健介, 岡本和久, 小川竜, 水上一弘, 沖本忠義, 兒玉雅明, 九嶋亮治, 村上和成
2. 発表標題 H.pylori感染による慢性胃炎における偽幽門腺化生の背景粘膜の特徴と除菌による影響
3. 学会等名 第60回日本消化器病学会大会, JDDW2018, 第26回日本消化器関連学会週間, 兵庫県神戸市, 神戸コンベンションセンター
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 福田 健介, 首藤 充孝, 岡本 和久, 小川 竜, 松成 修, 水上一弘, 沖本 忠義, 兒玉 雅明, 村上 和成
2. 発表標題 H. pylori 除菌後の抗H. pylori抗体価, pepsinogen値の推移と内視鏡萎縮, 組織学的所見との関連
3. 学会等名 第60回日本消化器病学会大会, JDDW2018, 第26回日本消化器関連学会週間, 兵庫県神戸市, 神戸コンベンションセンター
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小川竜, 福田健介, 岡本和久, 水上一弘, 沖本忠義, 兒玉雅明, 村上和成
2. 発表標題 HRM に加え MII-pH を行うことは POEM 適応決定に有用である
3. 学会等名 第12回先進内視鏡治療研究会, 兵庫県, 神戸市, 神戸三宮研修センター
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小川竜, 福田健介, 岡本和久, 松成修, 水上一弘, 沖本忠義, 兒玉雅明, 村上和成
2. 発表標題 食道癌に対するサルベージ療法としてのESDの有用性・安全性の検討
3. 学会等名 第15回日本消化管学会総会学術集会, 佐賀県佐賀市, ホテルグランデはがくれ佐賀
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 兒玉雅明、藤岡利生、村上和成	4. 発行年 2020年
2. 出版社 日本医事新報社	5. 総ページ数 244
3. 書名 榊 信廣 編、ピロリ除菌治療パーフェクトガイド 第3版	

1. 著者名 兒玉雅明、村上和成.	4. 発行年 2019年
2. 出版社 南山堂	5. 総ページ数 234
3. 書名 胃がんリスク層別化検診（ABC検診）胃がんを予知・予防し，診断・治療するために(三木一正 編) 南山堂	

1. 著者名 後藤田卓志、内藤裕二、藤本一眞 編著。兒玉雅明、村上和成	4. 発行年 2018年
2. 出版社 金芳堂	5. 総ページ数 248
3. 書名 早期胃癌がみえる!見落とさない! 胃内視鏡検査・診断に自信がつく本. ピロリ菌除菌後のPPI長期使用における異時性胃癌	

1. 著者名 編集 隅田好美, 藤井博志, 黒田研二. 兒玉雅明	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 216
3. 書名 よくわかる地域包括ケア, 脳卒中の医学的知識の概要	

1. 著者名 編集 隅田好美, 藤井博志, 黒田研二, 兒玉雅明	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 216
3. 書名 よくわかる地域包括ケア, がんの医学的知識の概要	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	村上 和成 (Murakami Kazunari) (00239485)	大分大学・医学部・教授 (17501)	
研究分担者	沖本 忠義 (Okimoto Tadayoshi) (90381037)	大分大学・医学部・講師 (17501)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------